

日本語学習者の対日イメージとその影響要因：韓国の大学を事例として

金, 元正
九州大学大学院地球社会統合科学府

<https://doi.org/10.15017/2228582>

出版情報：地球社会統合科学研究. 10, pp.1-8, 2019-02-20. Graduate School of Integrated Sciences for Global Society, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

日本語学習者の対日イメージとその影響要因

—韓国の大学を事例として—

キム
金

ウォン ジョン
元 正

1. はじめに

韓国の教育統計サービスによると、韓国の大学における日本語・文学系専攻への2016年志願者数は2011年に比べ、一般大学では4割、専門大学では5割以上、大学院修士・博士課程ではそれぞれ約5割減と大幅に減少している。一般財団法人日本語教育振興協会の「日本語教育機関の概況」によると、日本国内の日本語教育機関に在籍している韓国人日本語学習者（以下、韓国人学習者）数は、2010年には6,708人であったが、2016年には1,763人と7割以上減少している。また、日本の法務省によると、韓国人留学生の総数も2010年には27,066人であったが、2016年12月末には15,438人となり、4割以上減少している。

以上のとおり、韓国における日本関連専攻者（以下、専攻者）や韓国人学習者、日本の韓国人留学生が減少しているが、その背景には、対日イメージが影響を与えるという観点から、本研究では対日イメージとその影響要因について検討する。さらに、韓国人学習者や専攻者などが減少した要因や対日イメージに男女及び日本語レベルによって違いがあるかについても検討する。

2. 先行研究及び研究課題

対日イメージに関する研究としては、呉（2008a,b）、岩井・朴・加賀美・守谷（2008）、大江（2012）、加賀美・守谷・岩井（2014）、金（2016）などが挙げられる。岩井・朴・加賀美・守谷（2008）は、韓国人学生（小・中・高・大学）を対象とした先行研究のレビューを行った結果、日本イメージには肯定、否定、中立が混在し、過去と現在の混在も見られるアンビバレントな状態であり、この多面的な対日イメージは、韓国人学生が抱く日本観の複雑さを示していると述べている。齊藤（2004）は、来日経験がある学生や日本関連学科の学生、日本語を学習している学生、特に日本語学習の期間が長い学生が日本について良いイメージを持っていることを明らかにしている。また、2011年以降行われている研究として、加賀美・

守谷・岩井（2014）では、20代の韓国人日本語上級話者を対象に、彼らが抱く日本イメージを調査し、得られた結果から、日本イメージを「肯定的」「否定的」「中立的」に分類した。特に否定的なイメージの中に「地震・放射能」があり、3.11東日本大震災（以下、3.11）が、依然大きな影響力を持つことを指摘している。金（2016）では、日本在住韓国人留学生の2011年以降、対日イメージについて調査を行った結果、韓国人留学生が減少している原因として、放射能関連の報道や噂の与える影響力が大きく、10人のうち6人は家族・周囲から日本留学を反対されていたことがわかった。そして、対日イメージの形成要因については、大江（2012）と呉（2008a,b）では、「韓国のテレビ・新聞」、「日本のドラマ・映画・漫画」、「日本語の授業・日本関連授業」が最も大きな影響を与えていることを明らかにしている。

以上のように、対日イメージに関して多くの研究が行われているが、2011年以降、韓国人学習者や専攻者、日本への韓国人留学生の数が減少している現状を踏まえ、韓国人学習者等が持つ対日イメージとその影響要因を明らかにする必要がある。

以上を踏まえ、研究課題として以下、3点を設定した。

課題1. 2011年以降、韓国人学習者や専攻者などの数が減少している要因は何か。

課題2. 韓国の大学における日本語学習者が持つ対日（日本及び日本人）イメージは何か。

課題3. 対日イメージの影響要因は何か。

3. 調査方法

3.1 調査概要

2017年5月下旬に韓国の釜山にある大学1校で、日本語学習者50名（20代）を対象に質問紙調査を行った。質問紙は授業の際に担当教師が配布し、その場で回収した（回収率は100%）。日本語レベル（初級・中級・上級）については、休みの期間を除く日本語学習期間を尋ね、それをもとに自己申告してもらった。対象者の属性については、以下の表1に示す。

表 1 対象者の属性

性別	レベル別	学年別
女性 37名(74%)	初級 32名(64%)	1年生 42名(84%)
男性 13名(26%)	中級 13名(26%)	2年生 2名(4%)
	上級 5名(10%)	4年生 6名(12%)

3.2 質問紙の作成

質問紙は、日本及び日本人イメージとそのイメージの影響要因について、呉 (2008a,b)、大江 (2012)、加賀美・守谷・岩井 (2014)、金 (2016) を参考にし、その中で出現頻度が高かったもの、そして肯定的及び否定的イメージなどを偏りなく選定して作成した。質問項目は、「日本イメージ」19項目、「日本人イメージ」16項目、「対日イメージの影響要因」は21項目をである。韓国人学習者や専攻者などの減少の要因については、自由記述から得た。

3.3 分析方法

近年、韓国人学習者及び専攻者の数が減少している要因については、自由記述（複数回答可）から得たそれぞれの内容をEXCELで整理した上でカテゴリー化し、さらに男女別及びレベル別に分析を行った。回答は「1=全然そう思わない、2=そう思わない、3=どちらともいえない、4=そう思う、5=とてもそう思う」の5件法で求めた。日本（19項目）及び日本人（16項目）イメージについてそれぞれ因子分析¹（主因子法、プロマックス回転）を行い、その際、因子負荷量²が0.35以下の項目は除外することにした。また、対日イメージについてはt検定³を行い、男女別及びレベル別に比較した。そして、対日イメージの影響要因（21項目）については、カイ2乗検定⁴を用いて、各項目にそれぞれ占めている人数及び割合を分析し、さらに、男女別及びレベル別に分析を行った。

4. 調査結果と分析

4.1 韓国人学習者や専攻者などが減少している要因

韓国人学習者や専攻者などの減少の要因については、「最近発生した地震の問題」、「放射能の危険性」、「安全問題」、「就職ができない」、「日本語を学習するメリットが減少」、「日本語専攻者ではなくても日本語が上手な人が多く、競争力がない」、「中国語学習者が増え、韓国社会では日本語より中国語のブームである」、「就職のために中国語を学ぶ」、「日本との政治的、外交的の摩擦」、「嫌日と嫌韓」、「平行線をたどる日韓外交の問題」、「国際社会における日本の立場低下」、「危ない国」などの回答

を得た。意味が類似している回答は整理した上でカテゴリー化した。男女別及びレベル別に分析を行い、結果はそれぞれ図1（男女別）と図2（レベル別）に示した通りである。

韓国人学習者や専攻者などの減少要因は様々あるが、本調査の結果では、図1に示しているように「中国語の影響」（男性21%、女性23%）、「日韓関係の問題（政治・外交など）」（男性36%、女性18%）、「地震・放射能の問題」（男性7%、女性28%）の3つのカテゴリーが顕著に見られた。その他には「就職問題」や「日本語のメリット減少」などがあった。「中国語の影響」については金（2016）によると、3.11の影響が非常に強く、日本に対するイメージの悪化や日本語学習・日本語関連専攻・日本留学のメリットの減少などに伴い、中国語への関心がさらに高まっている。最近韓国では中国語学習者や中国語専攻者が非常に増加しており、中国語学習のブームであると言っても過言ではない。また、韓国社会では日本語を学ぶことの影響力が弱くなっているため、就職するにあたって有利ではないと見られる。

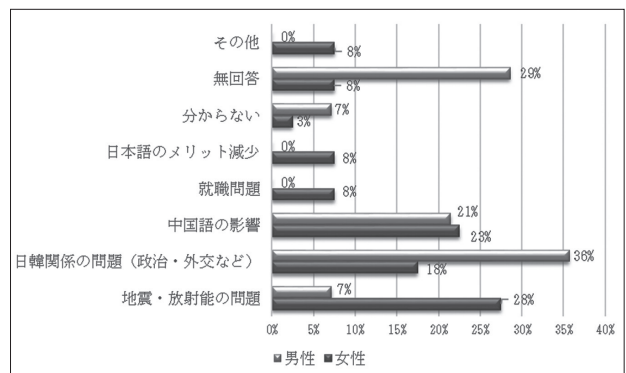


図 1 韓国人学習者や専攻者などの減少要因（男女別）

また、減少要因をレベル別にみると、図2に示しているように「中国語の影響」（初級21%、中級31%、上級0%）、「日韓関係の問題（政治・外交など）」（初級24%、中級13%、上級40%）、「地震・放射能の問題」（初級24%、中級19%、上級20%）の3つのカテゴリーが顕著に見られた。「中国語の影響」については、中級が初級と上級より高かったが、この理由については現在のところ不明であり、今後の課題にしたい。また、「日韓関係の問題（政治・外交など）」については、上級が初級と中級より高く、「地震・放射能の問題」については、各レベルにおいてそれぞれ2割程度の回答を得た。

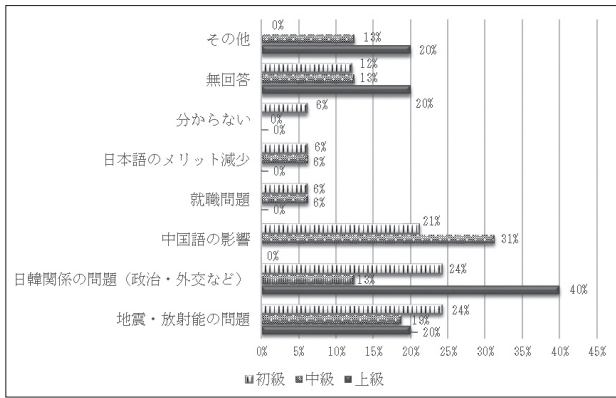


図2 韓国人学習者や専攻者などの減少要因(レベル別)

4.2 日本に対するイメージ

日本に対するイメージについて因子分析を行った結

果、4因子が抽出された。その結果を表2に示す。

第1因子は「信頼できる」(因子負荷量:.728)、「留学するにあたって良い国である」(.687)、「外国人が住みやすい国だと思う」(.539)、「生活環境が良い」(.449)、「偏見がある」(-.450)などの項目から「好条件」と命名した。第2因子は「放射能の国である」(.774)、「地震(3.11など)の国である」(.710)、「利己主義(政治・歴史問題)」(.437)などの項目から「不安定」、第3因子は「社会システムが良い(福祉、サービスなど)」(.816)、「能力主義である」(.526)、「規則・時間遵守」(.378)などの項目から「信頼性」、第4因子は「個性を重視する」(.757)、「独創的である」(.672)の項目から「個性的」と命名した。

表2 日本に対するイメージの因子分析の結果

質問項目	第1因子 好条件	第2因子 不安定	第3因子 信頼性	第4因子 個性的
8. 信頼できる	.728	-.084	.034	.083
13. 留学するにあたって良い国である	.687	.175	-.049	-.026
14. 外国人が住みやすい国だと思う	.539	-.105	-.056	.132
15. 偏見がある	-.450	.002	.083	.228
9. 生活環境が良い	.449	-.161	.377	.187
1. 先進国(経済・産業の発展)である	.373	.288	.079	-.147
19. 放射能の国である	-.039	.774	.029	-.063
18. 地震(3.11 東日本大震災など)の国である	.026	.710	-.094	.042
16. 利己主義(政治・歴史問題など)	-.372	.437	.171	.160
5. 伝統を継承重視する	.265	.414	.153	.056
10. 社会システムが良い(福祉、サービスなど)	-.151	.041	.816	.092
2. 能力主義である	.037	-.144	.526	-.115
4. 規則・時間遵守	.020	.228	.378	-.051
12. 就職率が高い	.068	.258	.371	-.151
6. 個性を重視する	-.013	-.145	.093	.757
7. 独創的である	.079	.303	-.239	.672
寄与率 ⁵ (%)	16.989	11.230	7.495	6.366
累計寄与率(%)	16.989	28.219	35.714	42.080

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

そして、日本に対するイメージについてはt検定を行い、男女及びレベルによる差を検討した。その結果は表

3に示す。なお、レベル別については上級が少ないという理由で、初級と中級のみを対象に行った。

表3 日本に対するイメージのt検定の結果(男女別)

	男性			女性			t 値
	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	
不安定	13	15.38	2.022	37	17.03	1.951	-2.587*

*p<.05

表3が示すように、レベルによる差は見られなかったが、男女別では「不安定」について、女性 (M=17.03, SD=1.951) のほうが男性 (M=15.38, SD=2.022) より

高く見られた。このことから、「放射能」と「地震 (3.11 など)」などに対して女性が男性より不安感を持っていることが分かった。

4.3 日本人に対するイメージ

日本人に対するイメージについて因子分析を行った結

果、3因子が抽出された。その結果を以下の表4に示す。

表4 日本人に対するイメージの因子分析の結果

質問項目	第1因子 信頼・興味・関心	第2因子 規範的	第3因子 二面的
3. 勤勉・誠実である	.900	.146	-.139
2. 礼儀正しい	.855	.106	-.064
5. 信頼できる	.777	.056	-.051
1. 親切・やさしい	.764	-.007	-.033
4. 仕事する際、緻密で徹底的である	.716	.109	.135
7. 日本人について、もっと知りたい	.661	-.336	.076
6. 友達として付き合いたい	.618	-.178	-.002
9. 日本人に見習うことが多い	.553	.028	-.032
8. 迷惑をかけない	.434	-.090	.386
15. 融通が利かない	-.100	.879	-.042
16. 固定観念	.079	.690	-.004
14. 情がない・冷たい	.009	.609	.070
13. 親しみにくい	.119	.493	.223
12. 本音をよく言わない	-.132	-.062	.921
11. 表現があいまい	-.007	.151	.715
10. 二面的である	.043	.092	.664
寄与率 (%)	30.780	18.413	6.052
累計寄与率 (%)	30.780	49.193	55.245

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

第1因子は「勤勉・誠実である」(因子負荷量: .900)、「礼儀正しい」(.855)、「信頼できる」(.777)、「親切・やさしい」(.764)、「仕事する際、緻密で徹底的である」(.716)、「日本人について、もっと知りたい」(.661)などの項目から「信頼・興味・関心」と命名した。第2因子は「融通が利かない」(.879)、「固定観念」(.690)、「情がない・冷たい」(.609)などの項目から「規範的」、第3因子は「本音をよく言わない」(.921)、「表現があいまい」(.715)などの項目から「二面的」と命名した。

次に、日本人イメージに対する因子について、男女及びレベルによる差を検討するため、t検定を行った結果、両群とも差は見られなかった。因子については、差が見られなかったが、項目それぞれについても差はないだろうか。

4.4 対日イメージの影響要因

対日イメージの影響要因については様々あり、それを男女別及びレベル別に分析を行った。まず、図3のように男女別の対日イメージからみると、男性の場合は「日韓関係 (政治、歴史など)」(92%)、「日本を旅行した経験」(92%)が最も高かった。女性の場合は、「韓国のテレビのニュース、時事番組」(84%)、「日本・日本語関連授業 (日本語教師の話や教材など)」(84%)が最も高く、続いて「日本のドラマ、映画、音楽」(81%)、「日韓関係 (政治、歴史など)」(78%)の順であった。

「親の影響」(男性0%、女性24%)については、金(2016)では対日イメージの形成に親が与える影響が非常に大きく、日本への留学も反対していたが、本研究の結果ではその影響は少なかった。また、「日本で生活した経験」(語学研修など)については男性(62%)に対し、女性(19%)は非常に低かった。

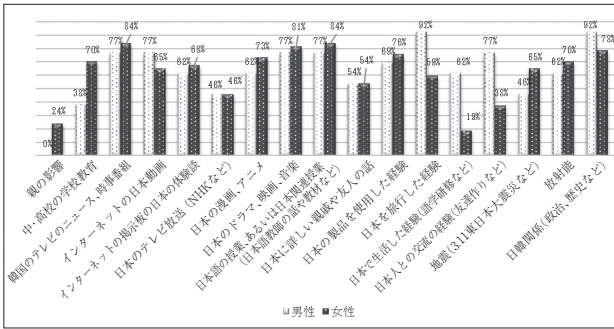


図3 対日イメージの影響要因 (男女別)

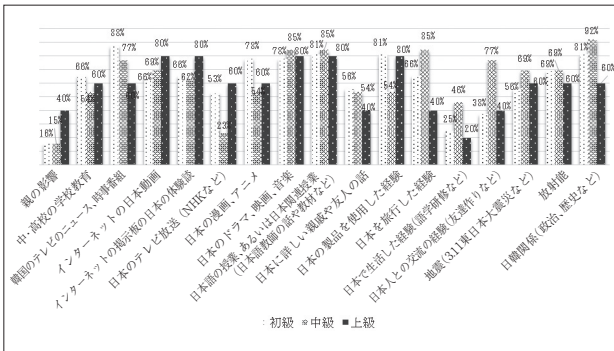


図4 対日イメージの影響要因 (レベル別)

また、図4で示したように、レベル別にみると、初級の場合は「韓国のテレビのニュース、時事番組」(88%)が最も高く、続いて「日本・日本語関連授業 (日本語教師の話や教材など)」(81%)、「日本の製品を使用した経験」(81%)、「日韓関係 (政治・歴史など)」(81%)が高かった。中級の場合は「日韓関係 (政治・歴史など)」(92%)が最も高く、「日本のドラマ、映画、音楽」(85%)、「日本・日本語関連授業 (日本語教師の話や教材など)」(85%)、「日本を旅行した経験」(85%)が続いた。上級は「インターネットの日本動画」(80%)、「インターネットの掲示板の日本の体感談」(80%)、「日本のドラマ、映画、音楽」(80%)、「日本・日本語関連授業 (日本語教師の話や教材など)」(80%)、「日本の製品を使った経験」(80%)が高かった。対日イメージの影響要因について、初級・中級・上級に共通して高かった要因は「日本・日本語関連授業(日本語教師の話や教材など)」であった。一方、「親の影響」は男女別及びレベル別双方においてイメージに与える影響が最も低かった。

5. 考察

まず、韓国人学習者や専攻者などの減少要因について、男女別及びレベル別に分析を行った結果、両群とも「中国語の影響」、「日韓関係の問題(政治・外交など)」、「地震・放射能の問題」の3つのカテゴリーが顕著に見られた。

「中国語の影響」については、最近韓国社会では就職するにあたり、日本語の影響力が弱くなっており、中国語が評価される傾向にある。それに伴い、韓国では中国語学習者や大学における中国語専攻者などが増加しており、大学での中国語関連学科の位置づけも高まっているのが現状である。金 (2016) によると、3.11以降、日本に対するイメージ悪化それが一層中国語へ関心を向けさせたと思われる。日本語学習者などの減少要因を、男女別で見ると、「中国語の影響」においては差があまり見られなかったが、「日韓関係」においては男性が女性より非常に高く、「地震・放射能の問題」については女性が男性より有意に高く見られた。「日韓関係」においては、男性が女性より政治や歴史の問題、両国関係などへの関心の高さが示唆され、「地震・放射能の問題」については、女性が男性より震災への恐怖感を強く持っていることがうかがえる。また、レベル別で見ると、この3つの減少要因において初級の場合はそれぞれ2割以上の回答を得ており、このことから日本語学習の初期段階で3つの要因が意識されていることが伺える。「中国語の影響」については、中級が初級と上級より高かったが、その理由は現時点では不明である。これは日本語学習に取り組む一方中国語への興味を示していることが考えられる。「日韓関係」については上級の4割から回答を得たが、今回の調査で上級の人数が少なかったため、今後人数を増やして調査を行う必要がある。「地震・放射能の問題」については、男性より女性に、そして日本語学習や日本・日本語関連分野に慣れ親しんでいる中級と上級より日本語学習を初期段階にある初級に、「地震・放射能」といった災害への不安感が表れている。しかし、比較的地震が少ない韓国では、現在でも「地震 (3.11など)・放射能」の影響力は大きいと見られるが、これは韓国だけに見られる特徴であるのだろうか。

次に、日本イメージについてであるが、抽出された「好条件」、「不安定」、「信頼性」、「個性的」の4因子は、レベル別では差が見られず、男女別では「不安定」において女性が男性より高く見られた。特に「地震 (3.11など)・放射能の国である」は3.11から6年も経った現在でも、その影響は大きいことがうかがえる。さらに3.11以降にも規模の大きい地震が各地で頻発していることも影響を及ぼしている。インターネットの使用率が非常に高い韓国では、多発している地震以上に「放射能」についてのインターネット上様々な噂が広まった大きな影響を与えている。例えば、ある女性専用のサイトのコミュニティでは、「日本の化粧品や女性用品を使っていたが、放射能が心配で使えない」、「日本への旅行を見直している」といった書き込みがみられ、男性より女性が災害への不

安感を持っていることが示唆される。そして、日本人イメージについては、男女別及びレベル別の両群とも差が見られなかったが、この結果は、因子に対する分析であり、項目それぞれについても差がないとは言えない。また、日本人イメージに対しては、呉（2008b）同時に肯定的イメージは「礼儀正しい」「親切・やさしい」「誠実、勤勉」など、否定的イメージは「二面的、本心がわからない」「冷たい」などが多く、このことから「人（国民）」に対するイメージは大きく変わるものではないことが示唆される。

最後に、対日イメージの影響要因について、男女別で見ると、男性の場合「日韓関係（政治、歴史など）」に最も影響を受けていることが分かる。また、「日本を旅行した経験」と「日本で生活した経験」についても男性が女性より非常に高く、男性は日本での実体験に、より強く影響を受けていると考えられる。女性の場合は、「韓国のメディア（テレビのニュース、時事番組）」と「日本語の授業、あるいは日本関連授業（日本語教師の話や教材など）」に影響を受けていることが分かった。特に来日の経験がない人の場合には「韓国のメディア」からの情報を通じて判断する傾向にあることと、授業内容や日本人教師との接触経験からも影響を受けることが示唆される。また、「日本のドラマ・映画・音楽・アニメ・漫画」について、男女別とレベル別の両群とも高かったが、来日経験がなくても韓国ではこれらに接触しやすいため、日本や日本人に対するイメージに非常に影響を与えやすい。一方、「親の影響」については両群とも他の影響要因に比べ、非常に影響が低く、特に男性の場合は0%で影響が見られなかった。これは、金（2016）の2011年3.11以降、「日本への留学を反対する親を説得し、日本へ留学することにした」という対象者が多く、これは親の意見ではなく自分の意志で判断する現在の韓国の若者像を反映している。また、レベル別で見ると、初級の場合「韓国のテレビのニュース、時事番組」が最も高かったのは、日本語学習を初期段階にある日本について知らないことが多いことから「韓国のメディア」に影響を受けやすいと考えられる。中級の場合は「日韓関係」、上級の場合は「インターネットの日本動画」、「インターネットの掲示板の日本の体験談」に最も影響を受けている。上級の場合、他のレベルに比べ日本語学習歴が長く、日本に対する知識も持っており、日本への実体験があるため、インターネットを利用した日本動画、掲示板の体験談などに影響を受けているのだろうか。

6. おわりに

本研究では、韓国学習者や専攻者などの減少している現状は、対日イメージが影響を与えているという観点から、対日イメージとその影響要因について検討し、さらに男女別及びレベル別で比較した。

まず、韓国学習者や専攻者などの減少要因は、様々あるが、本研究の調査結果では「中国語の影響」、「日韓関係の問題（政治・外交など）」、「地震・放射能の問題」の3つのカテゴリーが顕著に見られた。特に「日韓関係の問題（政治・外交など）」については男性と初級が、「地震・放射能の問題」については女性と初級が、影響を受けやすいことが示唆された。

次に、日本イメージについての結果では、レベル別は差が見られなかったが、男女別は地震、放射能、政治・歴史問題などといった「不安定」因子において男性より女性が不安感を持っていることが分かった。日本人イメージについては男女別及びレベル別の両群とも差が見られなかった。これは、日本という国に対するイメージは社会的な要因に左右されやすいが、日本人に対するイメージは変わりにくいことが示唆された。

最後に、対日イメージの影響要因については、男性の場合「日韓関係」と「日本を旅行した経験」に影響を受け、女性と初級の場合は、「韓国のメディア（テレビのニュース、時事番組）」と「日本語の授業、あるいは日本関連授業（日本語教師の話や教材など）」に影響を受けやすいことが分かった。一方、本研究の結果で「親の影響」については、男女別及びレベル別の両群とも他の項目に比べ非常に低かったが、これは親の意見より、日本への直接経験から影響を受けやすい、現在の若者の特徴を反映している。

今後の課題としては、男女別及びレベル別の比較ではなく、調査対象の大学数や人数などを増やして、日本関連専攻者と非専攻者の比較を検討していきたい。さらに、今回の結果で、日本人イメージについては、因子に対するt検定の結果で男女別及びレベル別の差が見られなかったため、今後は因子だけではなく、項目それぞれについても検討する必要がある。

注

- ¹ 因子分析とは、複数の変数間の関係から変数の共通性や独立性を推定する統計手法であり、観測された複数のデータの背後に共通要因が潜在しているとするのである。プロマックス法とは、先にバリマックス回転を行ってある程度の単純構造を得た後で、因子負荷をべき乗するなどして単純構造をより強調した因子パターンを作ってターゲット行列（目標行列）に指定し、その目標に近づくよう斜交回転を行わせる手法であり、最近では多くの統計家が斜交回転を推奨している（石川・前田・山崎（編）（2010）『言語研究のための統計入門』 p.229）。
- ² 因子負荷量とは、共通因子が観測変数に与える影響の「重み」、すなわち「因子にかかる負荷の量」である（石川・前田・山崎（編）（2010）『言語研究のための統計入門』 p.221）。
- ³ t検定とは、対象（サンプル）から得られた平均値をもう1つの対象の平均値と1対1で比較する方法である（米川・山崎（2010）『超初心者向けSPSS統計解析マニュアル統計の基礎から多変量解析まで』 p.20）。
- ⁴ カイ2乗（ χ^2 ）分布と呼ばれる理論上の分布に漸近的に従う検定統計量を用いた統計的仮説検定の総称である。クロス集計表についての検定（独立性の検定chi-square test of independenceとも呼ばれる）や適合度検定（chi-square goodness of fit testとも呼ばれる）、一様性の検定（chi-square test of homogeneityとも呼ばれる）など種々の検定が含まれる（近藤・小森（編）（2012）『研究社日本語教育事典』 p.319）。
- ⁵ 寄与率とは、全測定変数の散らばりに関してそれぞれの因子が説明している量である（寺島・廣瀬（2015）『SPSSによるデータ分析』 p.252）。

参考文献

- 岩井朝乃・朴志仙・加賀美常美代・守谷智美（2008）「韓国「国史」教科書の日本像と韓国人学生の日本イメージ」『言語文化と日本語教育』第35号, pp.10-19
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠（編）（2010）『言語研究のための統計入門』くろしお出版
- 大江恵子（2012）「韓国人日本語学習者の対日イメージ」『東京女子大学言語文化研究』20, pp.16-29
- 呉正培（2008a）「韓国人大学生の日本人イメージに関する社会心理学的研究－日本語学習の影響を中心に－」東北大学大学院, 博士学位論文
- 呉正培（2008b）「日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因－韓国の大学における学習者と非学習者の比較－」『世界の日本語教育』18,

pp.35-55

- 加賀美常美代・守谷智美・岩井朝乃（2014）「韓国における20代の日本語上級話者の日本イメージ」『お茶の水女子大学人文科学研究』10, pp.69-82
- 金元正（2016）「日本の韓国人留学生受入れ促進戦略への提言－対日イメージと韓国の大学をめぐる現状に焦点を当てて－」九州大学大学院, 修士論文
- 近藤安月子・小森和子（編）（2012）『研究社 日本語教育事典』研究社
- 寺島拓幸・廣瀬毅士（2015）『SPSSによるデータ分析』東京図書
- 齊藤朋美（2004）「韓国の大学生の日本、日本人、日本語に対する意識とイメージ形成に影響を與える要因について」『日本語文学』21, 韓国日本語文学会 pp.35-56
- 齊藤朋美（2016）「日本語学習者と中国語学習者の学習動機とイメージ研究－韓国の大学生を対象としたアンケート調査の結果からみえるもの－」『日本語教育研究』第37輯, pp.81-100
- 米川和雄・山崎貞政（2010）『超初心者向けSPSS統計解析マニュアル統計の基礎から多変量解析まで』北大路書房
- 法務省「在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表」http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html（2018年12月9日アクセス）
- 一般財団法人日本語教育振興協会「日本語教育機関の概況」<http://www.nisshinkyoo.org/article/overview.html>（2018年12月9日アクセス）
- 国際交流基金（2017）『海外の日本語教育の現状 2015年度日本語教育機関調査より』<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html>（2018年12月9日アクセス）
- 国際交流基金「韓国（2017年度）」『2015年度日本語教育機関調査結果』<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/korea.html#KEKKA>（2018年12月9日アクセス）
- 교육통계서비스（教育統計サービス）<http://kess.kedi.re.kr/index>（2018年12月9日アクセス）
- 교육부 국외 한국인유학생 정보공개（教育部「国外韓国人留学生現況」）<http://www.moe.go.kr/boardCnts/list.do?boardID=350&m=040103&s=moe>（2018年12月9日アクセス）

Image and the influence factors of the Japanese learners about Japan and Japanese people - In the case of universities in Korea -

Kim Wonjung

Since 2011, Korean Japanese language learners and other Japanese learners suddenly decreased in amount. In this article, I investigate the factors that can affect Korean impressions of Japan through current events. Firstly, the impact of "Chinese language", "Korea-Japan relations", "Earthquake (3.11) and Radiation problems" are the most important reasons that led to the reduction of Korean Japanese language learners. Secondly, we can know from the factor analysis that it can be summed up to the following 4 points: "Good environment", "Instability", "Reliability", "Respect for individuals". As for Korean impression of Japanese people, it can be summarized into 3 points: "confidence · interest · concern", "Well behaved", "double-dealer". Concerning the image of Japan, although in the t-test, there was no differences depending on the level, women were higher than men with regards to "instability" by gender. Finally, regarding influence factors of Japan's image, in the case of men, it is affected by "Japan-Korea relationship" and "experience traveling in Japan". In the case of women and beginners, it is found to be easily affected by "Korean media (TV news, current affairs program) " and "Japanese classes or Japanese related lessons (Japanese teacher stories and teaching materials) ".